

脱線防止ガード外れる！

3月4日、15:40頃、新幹線下り線・静岡～掛川間で「線路設備の点検」のために運転をいったん見合わせるとの指令情報がありました。

当日、のぞみ237号が静岡駅で抑止となり、点検終了し約16分の遅れで発車となりました。その後、点検の理由や状況についてはいっさい情報が流れませんでした。当然、各乗務員や職場でも今日まで明らかにされていません。

以下の新聞記事によると「原因を精査し、対策を検討したい」と会社の広報が述べていますが、新幹線の全線においてこのような事象がないのか、徹底した調査が必要です。会社は、関係する社員に隠したりせず、まずは職場で明らかにするべきです！

あわや脱線！重大事故との認識はないのか！？

新幹線静岡～掛川
脱線防止板外れる
ダイヤに乱れ

三日午後二時四十分ごろ、東海道新幹線下り線の静岡～掛川駅間の菊川市吉沢の地点で、線路の間に敷設している脱線防止ガード一本が外れているのを係員が発見した。現場で新幹線の走行に影響がないと判断した上で、午後五時から運転を見合わせてガードを取り除き、十一分後に運転を再開した。下り線三本で最大八十分の遅れが出て、約二千八百人に影響した。JR東海によると、ガードは金属製の板で、レールと並行するように内側に敷設し、地震の際に脱線するのを防ぐ。一本の長さは約四尺、高さは約二十センチ、重さは約百二十キログラムで、レール側に倒れていた。ガードとレールの間は、車輪に接触しない十分な間隔が確保されていたという。ガードを固定していた四本のボルトの緩みが原因とみられる。東海道新幹線では二〇一二年四月にも静岡～新富士間のガードでボルトの緩みが確認された。広報担当者は「原因を精査し、対策を検討したい」と話した。